

もっと知るとちぎ MOTTO TOCHIGI もっと好むとちぎ

とちぎ の 中山間

みんなで作る、
とちぎの地域。

CONTENTS

- 2 農業・農村の多面的機能とは。
- 4 「くろばね茶」の復興と「紅茶」の開発への挑戦！
- 6 地域住民が主役。
- 9 人を呼び込む。
- 10 ふるさとを守る。
- 12 鳥獣から農作物を守る。
- 14 中山間地域を支える。

栃木県



発行

H27.3

栃木県 農政部 農村振興課

〒320-8501 栃木県宇都宮市埴田 1-1-20
TEL 028-623-2334

農業・農村の多面的機能とは。

農業・農村は、「食」を支えているだけでなく、国土の保全や、水源のかん養、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承など様々な働きを持っています。このような様々な働きを「多面的機能」といいます。この「多面的機能」は、県民の大切な財産であり、これを維持・発展させるためにも、農業を継続することが大変重要です。

洪水が起きないようにする
田は周りをあせて囲まれているため、また畑は土のすき間が多いため、水をためることができません。このため洪水を防ぐことにも、役立っています。



土砂崩れや土の流出を防ぐ
田畑はこまめに手入れをしたり、耕すことで、田畑にためられた水はゆっくりと地下にしみこむようになります。このため、地下水が急に増えるのをおさえ、土砂くずれなどの災害を防ぐことにつながります。



川の流れを安定させきれいな地下水をつくる

田にたまった水は、一部は排水路から川にもどります。また、一部はゆっくりと地下にしみこみ、地下水となったり川へわき出して、川の流れを安定させる働きがあります。



生きものを育てる
田は、いろいろな生きもののすみかとなり、豊かな生態系が保たれています。



有機物を分解する

田畑の土の中にいる微生物は、家畜の排せつ物や野菜のくずなどをかち作った有機物を分解し、作物が養分として利用しやすい形に変えます。

景観の保全
保健休養の場の提供

生態系の保全
地下水かん養
河川流域の安全



出典／農林水産省 HP

伝統文化を守る

農村には、農作物の豊作に感謝するお祭りや、農作業の安全をいのる行事など多くの伝統的な文化があります。農業は、地域の伝統や文化を受けつぎ続けることに大きな役割を果たしています。



美しい風景をつくる

農村地域では農業が営まれることによって、作物や農地、農家の家屋周辺の水辺や里山が一体となって、美しい田園風景をつくっています。



癒しや安らぎをもたらす

農村のきれいな空気や水、美しい緑、四季の変化などが安心とやすらぎをあたえ、心と体をリフレッシュさせます。



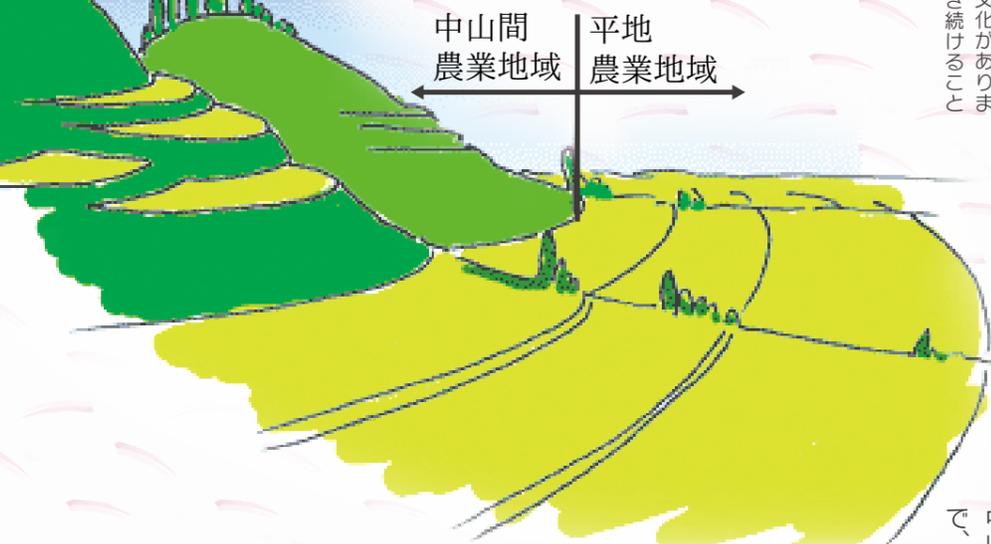
体験学習や教育の場として

農村で動植物や豊かな自然にふれることで、生命の大切さや食料のめぐみに感謝する心が育まれます。

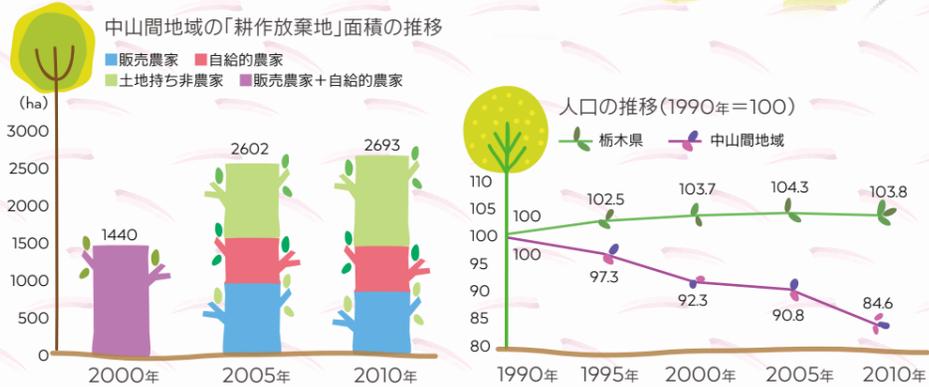


出典／農林水産省 HP

『中山間地域とは』
中山間（ちゅうざんかん）地域とは、平野の外縁部から山間地を指します。山の多い日本では、このような中山間地域が国土面積の約7割を占めており、栃木県では、約半分（47%）を占めています。栃木県における中山間地域は、西部の日光～北部の那須～東部の八溝にかけての地域になります。



『中山間地域の現状』
中山間地域では、人口が減少する一方で、耕作放棄地が増加しています。



【とちぎの田園ふるさと風景百選】

美しく豊かな「とちぎのふるさと田園風景」を百年後に継承するとともに、「活力に満ちたふるさととちぎづくり」を、多くの県民の皆様の理解と参加を得ながら展開していくため、「とちぎのふるさと田園風景百選」を選定しました。
http://www.agrinet.pref.tochigi.jp/tochigi_event/denenmap/

「くろばね茶」の復興と

「紅茶」の開発への挑戦！

活動事例紹介

H26

都市住民との交流

旅行会社と連携しながら、茶摘み体験及び木の実クラフト、雲巖寺周辺散策ツアーを4回紅茶物語ツアーとして実施。また、中山間地域魅力体験ツアーでは、茶摘みボランティアの受け入れを行いました。



H26

須賀川地区の魅力満載

雲巖寺など地区内のみどころや季節の魅力ある花々など、地域の魅力をPRするパンフレット「やみの郷 須賀川花暦」を製作しました。

H26

とちぎ夢大地応援団 カレッジ活動

足利短期大学学生があつまっぺ協議会が管理する茶畑周辺の草むしりや景観作物（ヒマワリ）の種まきを行いました。



将来の夢

緑茶「くろばね茶」と開発した紅茶「雲巖の静謐(うんがんのせいひつ)」の商品を販売PRするために、須賀川地区内の古民家を活用し、「おもてなしカフェ」の設置を目指します。



H24

地域活性化構想策定

地区活性化を図るために、5回のワークショップを通じて、地域資源等の見直し、廃校の利活用検討、現状の課題整理等を行い、地元農産物を活用した地域活性化構想を策定しました。



H23

地域のお宝を探るために！

中山間地域の特性・意義・役割等を説明し、むらづくりに取り組むための手法としてワークショップの方法や効果について、学びました。



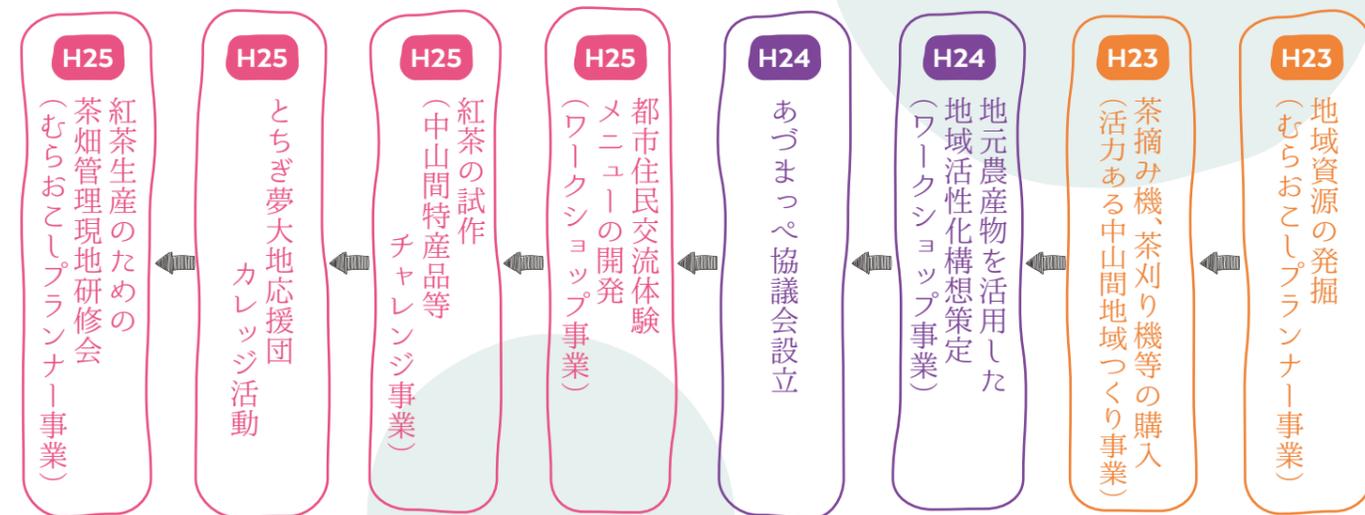
H25

紅茶の試作

茶葉を使った新商品(紅茶)を開発し、特産品として生み出すため、紅茶の加工と商品化に向けた試作を行いました。



これまでの活動



都市住民との交流拠点づくり

中山間地域における地域住民活動を広げていくため、県内における実践事例としてモデル的・拠点的な
グラウンドワーク活動の支援を行い、周辺地域へ地域住民活動の取組を広げていきます。



グラウンドワーク事業 (H23)

『交流施設の整備』
(茂木町山内甲地区)
山内甲地区は棚田が広がり、ホタルが飛び交う美しい自然環境が残る地域で、この棚田や自然を活用し、都市農村交流に取り組んで来ました。
棚田オーナー制度を核にしたホタル観察会やファッションショーを行うなど活発に活動を行っています。
今回、来訪者が快適に休憩できる施設を地域住民自ら施工を行い、今後の交流活動の更なる発展が期待されます。



『古民家を拠点とした
都市住民との交流』
(鹿沼市下久我地区)
「古民家久我の庄」を拠点に木工教室やまんじゅう作りの交流イベントを開催するとともに、周辺の花壇整備や案内看板やベンチ作成を行いました。
これらの活動を地域住民が積極的に行うことで、これまで以上に都市住民との交流への意欲が高まり地域の元気が生まれました。



グラウンドワーク事業 (H25)

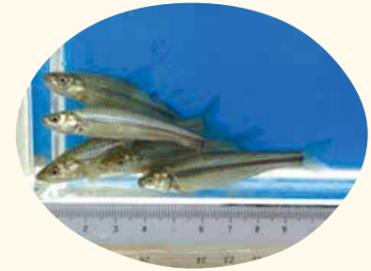
魅力ある中山間の未来をつくる

地域の特性に応じた多様な地域住民活動の展開を図るため、ワークショップの手法を用いて、
地域住民活動の活発化や組織作り等を支援します。



ワークショップ事業 (H26)

『ホンモロコを活用した地域活性化』
(那珂川町馬頭地区)
那珂川町ホンモロコ養殖組合連絡協議会が、那珂川町立の小中学校と幼稚園の給食に「那珂川町山ほんもろこ」を提供しました。ほんもろこは、骨が柔らかい淡白な味のコイ科の小魚で、清流を引いた休耕田を活用した池で手塩にかけて育てられました。
子どもたちは「ほんもろこのごまからめ」を頭からほくほくと平らげ、おかわりの列にはたくさんの子どもが並びました。
今後は加工品の開発や飲食店へのPRなど、より一層積極的に販路拡大に取り組んで行く予定です。



『地元食材弁当の開発』
(茂木町飯飯地区)
弁当や総菜などの新商品開発のための研究結果として地区の中心施設である「いい里さかがわ館」において新作弁当等を開発し、販売しています。
食材は、地元産のコメを使用し、野菜にこだわり、季節の野菜の天ぷらなど10種類のおかずが詰まっています。冷凍物は使わず、全て手作りで、竹皮を張った弁当箱、包装紙のデザイン(4種類)は、茂木高校美術部生徒が協力しています。



ワークショップ事業 (H24)

地域住民が主役。

人を呼び込む。

中山間地域の多くの集落では高齢化や過疎化の進行等により、農業や地域活動が困難な状況となっています。その中で、「地域を活性化し、元気にしたい」と頑張っている集落もあります。こうした集落に実際に訪れてもらい、1人でも多くの方に中山間地域のファンになって頂けることを期待しています。



集落の課題を解決するための「地域活性化案」を若者の皆さんの視点で提案してもらいます。
若者提案型協働プロジェクト事業 (H26)

須賀川地区では地域に都市住民が来訪してもらうために、地域資源を利用した特産品や体験メニューの開発を行いました。今回、宇都宮大学の学生が地域住民と交流を図りながら、須賀川の地域資源を都市住民にPRして誘客する方策の検討を行い、地域活性化案をとりまとめました。

『若者と地域住民による
魅力ある地域づくり』
(大田原市須賀川地区×宇都宮大学)



『中山間地域の魅力を満喫！』
(大田原市、那珂川町、那須烏山市、茂木町)

農山村地域の魅力やボランティア活動を体験できる「栃木を感じる農村体感ツアー1泊2日旅」を八溝地域で実施しました。首都圏などから約20人が参加し、爽やかな秋空の下、茶摘みのお手伝いや果物の収穫体験、地元の方々と交流など、中山間地域の魅力がたっぷり詰まった旅となりました。



農山村地域への来訪意欲の喚起やボランティア活動に関する潜在的な需要の掘り起こしに向けた取組を進めるため、農山村地域の魅力やボランティア活動を体験できるツアー等を行います。



中山間地域魅力体験ツアー事業 (H26)

企業と集落による協働活動



企業等中山間集落支援モデル事業 (H24-H25)

佐野市船越北地区では、地元住民と企業が協働し、耕作放棄地を農地へ再生する活動が行われています。活動のきっかけは、平成23年度に長年、耕作放棄されてきた農地を「とちぎ夢大地応援団」のみならず、耕作放棄地の再生を行ったことです。平成24年度は、船越北町会、(株)シオダ食品、三陽建設(株)と協働で、水路の整備等を行うとともに、再生した農地にはソバやシヨウガの栽培もしています。将来は、シヨウガの栽培を増やしたり、地域の休耕地をレンゲ畑にしたりする構想があり、夢は大きく膨らんでいます。



『企業と集落の協働による
耕作放棄地の再生』
(シオダ食品×佐野市船越北地区)

地域資源を活用した特産品開発

『地域特産品を使ったドレッシング開発』
(那須塩原市中塩原地区)

中塩原地区は、大根やカブの栽培が盛んな地域ですが、年々、シカやサルによる被害が増加しています。また、高齢化や後継者不足により遊休農地も目立ち始めています。そこで、それらの対策及び高原野菜の消費拡大を図るため、獣害に強い香草の作付けをするとともに、アグリパル塩原会のドレッシング部会(女性13名)では、地元でとれた塩原大根やほうれん草等をより美味しく食べてもらうために、特産品であるキウイフルーツや柚子を中心に、タマネギや生姜、ニンニク等を使ってドレッシングを開発しました。これらのドレッシングは、アグリパル塩原内の3カ所で販売しています。

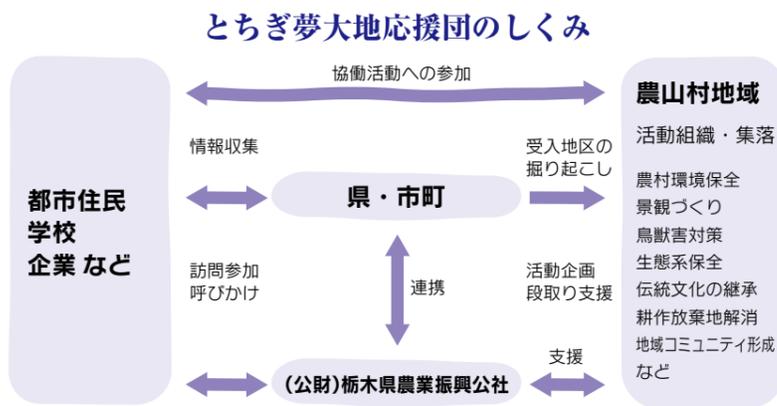


中山間特産品等チャレンジ事業 (H25)

ふるさとを守る。



地域住民 × 都市住民



『とちぎ夢大地応援団活動』
 農山村地域では、過疎化や高齢化が進み、農地を守ることが地域文化の継承を伝えていくことが年々難しくなっています。とちぎ夢大地応援団は、様々な人の交流や協働活動を通じて、農山村地域の活性化や地域資源を守り「ふるさと栃木」を次世代に伝えていくことを目的に活動しています。

茂木町 河又地区
 茂木町河又地区では農村レストラン「虹色の里あじ彩」を拠点に都市住民との交流を行っています。今回は「里山散策のための丸太階段と橋づくり」を行いました。農業体験等で河又を訪れる保育園児が安全に里山を散策できるように、急な斜面に丸太階段を設置したり、水路を渡るための橋をつくりました。園児達の喜ぶ姿を見るのが待ち遠しいです。

那須烏山市 国見地区
 「国見の棚田は日本の原風景。しかし、高齢化が進み維持するのが困難になってきている。たくさんさんのボランティアの皆様が参加して頂き大変ありがたく思っている。」大谷那須烏山市長の歓迎の挨拶のあと、棚田周りの急傾斜斜面の草刈を行いました。通常の作業より労力が必要となりますが、日本の棚田100選にも指定されている国見の棚田を守るため、参加者丸となって作業を行い、美しい棚田が現れました。



- とちぎ夢大地応援団の“3つの目標”**
- 1 豊かな農村の維持・保全
 - 2 ボランティアと地域住民が協力し合えるパートナーシップの構築
 - 3 豊かな地域資源の創造と継承

『カレッジ活動』
 とちぎ夢大地応援団カレッジ活動は、次世代を担う若い人たちが農地保全などの活動を通じて豊かな農村環境の維持・保全の大切さを学び、さらに伝統文化に触れ農業農村への理解を深めて頂くための活動です。

佐野市 上仙波地区
 足利短期大学学生と地域住民の方と一緒に、林地と集落の間にシカ侵入防止フェンスを約200m設置しました。地元の代表者は「高齢化が進む中、若い人の支援はうれしい。活動を通して中山間地域の問題に関心を持って欲しい」と話していました。

栃木市 大柿地区
 大柿地区は集落をヒガンバナで、いっばいにする活動を行っています。足利短期大学学生が、ヒガンバナの球根を植栽する作業を行いました。参加した学生は、「久しぶりに自然と触れあうことで心が癒された」「花が咲く頃また訪れたい」と話していました。



『企業連携活動』
栃木市 大柿地区
 栃木市大柿地区において、テクセラアルズ㈱の皆様が参加し、夢大地応援団活動を実施しました。
 大柿地区では美しい里山を快適に都市住民の方に散策して頂けるよう土の遊歩道にチップをまく作業と清掃作業を行いました。
 参加した企業の方は「今後も里山整備のお手伝いを続けていきたい」と話していました。



鳥獣から農作物を守る。



『鳥獣から農作物を守る対策事業』

鳥獣類による農作物被害を防止するため、地域が主体となって行う地域ぐるみの鳥獣被害防止の取組を支援します。

企業等中山間集落支援モデル事業 鹿沼市上板荷地区では、イノシシの農作物被害が深刻化しており、被害を防止するため、平成24～25年度にかけて地元スーパの協力も得て、集落全体を囲う侵入防止柵を全長9.2km設置しました。

これにより、農地へのイノシシの侵入が減少し作付けが再開。生産した小ナスなどを地元スーパーで販売したことから、さらに生産者の意欲が高まり、地域の活性化につながっています。

この活動は優良事例として評価され、平成26年度鳥獣被害対策優良活動表彰「農林水産省生産局長賞」を受賞しました。

なぜ被害が増えたのか？

被害が増えてきた理由

現代におけるイノシシの生息域の急激な回復は過去の歴史を見ても類を見ないほどのものとなっています。そのもっとも大きな要因のひとつとして考えられるのは、1962年頃からエネルギー源の転換が起こり、高度経済成長に伴い、経済構造が変化し農村部が過疎化し始めたことです。エネルギー革命以前は燃料である薪や炭を採り、水田を作り、焼き畑も行い、木材としても山林を利用していたため、人が身近



イノシシによる水稲被害



イノシシによる掘り起こし被害

にいて、餌も少なく、見通しの良い山林は野生動物にとっては生息しにくい環境でありました。ところが、燃料は、電気やガス、石油などに変わり、山林は放置され、藪が広がり、野生動物にとって住みやすい環境になっていきました。イノシシは非常に警戒心が強く臆病な動物であるため、姿を隠すことができ、かつ、餌が豊富な広葉樹林、竹林、藪、耕作放棄地をとても好みます。こういった場所が豊富にあるとイノシシは安定的に繁殖し、数が増えてしまいます。

また、農作物は栄養価が高いため、ひとたび農地の侵入を許せば、自然死亡率が低下してさらに数が増えてしまいます。

農作物被害は20億円

鳥獣による農作物被害金額は平成25年度、国全体では約200億円。栃木県全体で約3億円にものぼっており、深刻な状況です。

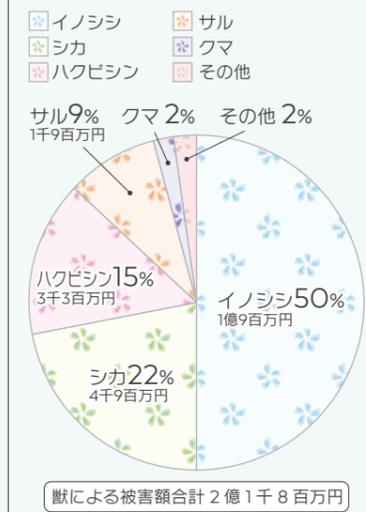
平成25年度、県内の獣類による被害は約2億1千8百万円であり、そのうち「イノシシ」による被害が約半分を占めています。平成26年に宇都宮市の市街地でもイノシシの出没がありました。近年、鳥獣による被害は山間部から平地部まで広がっている状況です。

被害防止対策は全国各地で昔から試行錯誤が重ねられ、現代ではワイヤーメッシュ柵や電気柵などの獣類の侵入を食い止める技術が確立されていますが、柵の設置等による防止効果を発揮させるためには、個々の農家だけでなく、非農家も含め地域全体がまとまって行う必要があります。個人で対策を行うことも、対策をしていない近隣の農地では被害が発生し続けるため、地域全体としての被害軽減には繋がりにくいです。結果として個人の負担も重くなってしまいます。

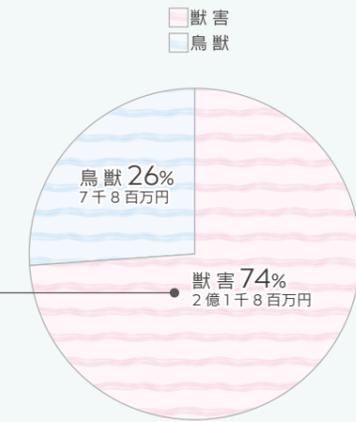
このため、国の制度により、柵で守る対象農地の受益者3戸以上がまとまり、自力で柵を設置する場合には、柵の資材費を全額補助する事業制度があります。県内ではこれらの事業等を活用し、各地域で柵の整備が

円グラフで見る鳥獣被害

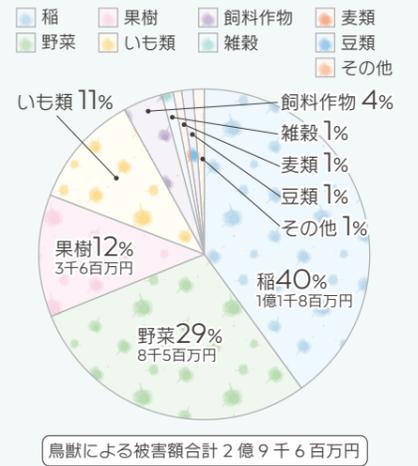
被害を及ぼす獣種内訳



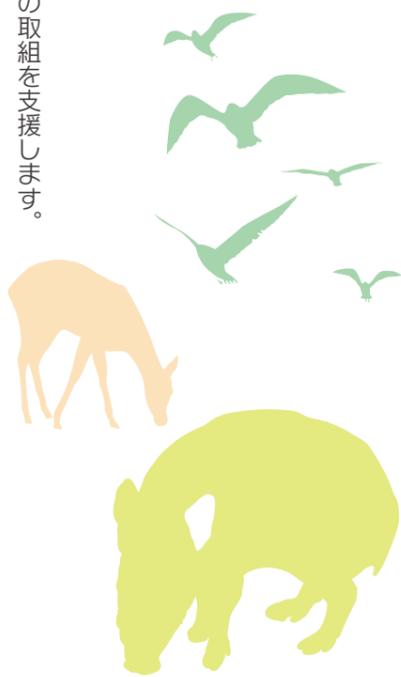
被害を及ぼす鳥獣内訳



平成25年度栃木県内における鳥獣による農作物被害内訳



対策の理想図



進められています。また、県では宇都宮大学や鳥獣管理士等の専門家と連携し、野生鳥獣の生態を踏まえた被害防止対策に関する正しい知識、技術を持った地域リーダーの育成や、地域ぐるみの対策を広く普及させるため獣害に強い集落づくりに取り組んでいます。野生鳥獣対策は集落の協働作業でもあり、地域の結束力が高まり活性化に結びつき取り組みでもあります。これからも関係者が力を合わせ、美しい農地農村を未来に向けて守っていくことが大切です。



『吊り橋』（那須塩原市板室地区）

那珂川支流の木の俣川に「巨岩吊橋」を整備し、7月13日にオープン記念式典が行われました。橋は板室温泉の入り口にあり、両岸には、交流広場や遊歩道も併せて整備されました。清流と豊かな緑の景観を楽しむことから、都市部からのツアーや交流イベントに利用することで、地域活性化の拠点となることが期待されています。



『加工所』（茂木町須藤地区・林地区）

須藤地区の『もてぎ手づくり工房』では、ユズを中心とした地元特産品を使ったソース、ジャムなどの商品開発を行い、林地区の『林農産加工所』では、地元産の野菜を使ったギョウザ、惣菜などを創作することで、加工品のブランド化を展開し、地域農業の活性化や雇用創出を進めています。また、「道の駅もてぎ」などで加工品を販売することで都市住民との交流拡大につなげるとともに、生産から加工、販売までを町内で行う6次産業化の拠点施設として、地域活性化の起爆剤となることが期待されています。

山村振興対策事業

農業生産活動等の維持を図りながら、農山村の活性化を図るため、歴史、伝統文化、自然環境等の地域の特徴を活かした生産施設や交流施設等の整備を支援します。

中山間地域を支える。

中山間地域は流域の上流部に位置することから、中山間地域の農業・農村が持つ多面的機能によって、下流域の都市住民を含む多くの県民の豊かな暮らしを守っています。この「多面的機能」は県民の大切な財産であり、これを維持・発揮させるために行われている様々な取組を紹介いたします。

中山間地域等 直接支払制度

中山間地域は、一枚当たりの田んぼも小さく、傾斜も急で法面の草刈りにも労力がかかるなど、高齢化が進行する中で、農地を維持していくことが困難になっています。そのような中山間地域の農業・農村を維持し、将来に向けて発展していけるよう、県内、市町

実施しています。この制度を活用し、農業生産条件が不利な中山間地域において、農地の維持・管理を通じた多面的機能の確保や地域活性化の取組が進められています。平成27年度から始まる第4期対策は、日本型直接支払制度のひとつとして「農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律（H27.4.1施行）」に基づき実施されます。



『彼岸花の咲く里横沢』（那須町横沢地区）

横沢集落は、那須の観光地にも近いことから集落を通る観光客の目を楽しませるため集落の沿道に地域住民と一緒に彼岸花の植栽活動を行っています。

県営中山間地域総合整備事業

中山間地域における農業の振興と住居条件の向上を図るため、立地条件を活かした農業生産基盤と農村生活環境の整備を総合的に支援します。



『水路橋』（塩谷町荒川清流地区）

中山間地域総合整備事業で整備した用水路（西古屋地区）において、河川を横断して用水路を通すため水路橋（橋長18m）が整備されました。今回の改修により、白石川左岸の大水田地域へ用水の安定供給が可能になりました。



『活性化施設』（矢板市泉地区）

「第一農場活性化施設」は住民による地域活性化活動の拠点として有効活用されています。地元の女性農業者で結成された「山ゆりの会」による地元産のもち米を使用した「赤飯」や「豆餅」等の加工品の生産が行われており、「道の駅やいた」で販売しています。購入者からも好評を得ており、地域の活性化に寄与しています。



とちぎの棚田21

県内には古くから伝わっている棚田がたくさんあります。食料生産の場であるとともに、貴重な地域資源の一つであり、癒しや安らぎを与えてくれるなどの大切な役割をもつ棚田は、地域の人達の多くの努力によって守られてきました。ふるさとの原風景として都市住民のみならず、かちも親しまれる棚田をこれからも守っていくために、

めには、広く県民の皆様に棚田を理解していただくことが重要です。このため、県では、21世紀に残すべき優良な棚田として「残したい栃木の棚田21」を認定しています。棚田は、見る季節、時間、天候等によって、様々な表情を見せてくれます。私たちに新たな発見をさせてくれます。この機会に、あなたのお気に入りの棚田を見つけてみてはいかがでしょうか。

HP : http://www.tochinokijp/pref/kikin/tanada_pr.html

那珂川町 健武山中
那珂川町 健武翼賀
那須 烏山市 国見
那珂川町 小砂大沢
那珂川町 大内臨郷
大田原市 尻高田
那須町 石倉
塩谷町 喜佐見
矢板市 兵庫畑
大田原市 大久保